第189号

発行所
新潟県中魚沼郡
中里村公民館

毎月1回15日
定価1部 5円

なかさと

4月1日現在

人口	7,497(−81)
男	3,716(−31)
女	3,781(−50)
世帯数	1,706(− 5)

カッコ内は前月との比較

教職員の人事
三校長の異動

恒例の年度末における、学校教職員の人事異動が、去る四月一日付で県教育委員会から発表された。中里村においても転出者十七名、退職者三名、転入者十九名の異動があった。

校長の異動では、田中敏雄田沢中学校長は柏崎市教育委員会に栄転、後任には柏崎市鵜川中(村松典方 田沢中学校長)

(田中三郎 高道山小学校長)

(藤田甲子雄 清津峡小学校長)

学校より村松典方氏、小林達雄高道山小学校長は、刈羽郡勝山小学校に栄転、後任には、津南町中津中学校より田中三郎氏、山本広清津峡小学校長は、栃尾市一之貝小学校に栄転し、後任には柏崎市中通り中より藤田甲子雄氏が、それぞれ発令された。

なお中里村における教職員の人事異動は次のとおりである。

転 出

▽田沢小学校
宗村喜代子(南蒲原水小)
鈴木礼子(十日町六箇小)
五十嵐靖城(期間満了)
清水裕子(退職)

▽高道山小学校
小林達雄(刈羽勝山小)
村山繁(十日町小)
多賀淳一(燕市東小)

▽倉俣小学校
鹿田房男(田沢中)
小川武(北魚堀之内小)

▽清津峡小学校
山本広(栃尾市一之貝小)
笠原賢子(期間満了)

▽田沢中学校
田中敏雄(柏崎市教育委員会)
武田光延(津南中)
広瀬政幸(津南中)
小林健(西蒲潟東中)
小林謙一(期間満了)
渋谷ひとみ(退職)

▽倉俣中学校
戸田直広(刈羽小国中)
滝沢紀子(退職)

転 入

▽田沢小学校
岩田芳(十日町小)
大平和子(秋成大赤沢分校)
桑原良治(津南町上郷小)
広田ヨシ子(新採用)

▽高道山小学校
田中三郎(津南町中津中)
福崎一夫(十日町飛渡第二小)
滝沢則夫(燕市東小)

▽倉俣小学校
横尾三秋(北魚堀之内小)
阿部悠(十日町川治小)

▽清津峡小学校
藤田甲子雄(柏崎中通り中)
小堀和子(新採用)

▽田沢中学校
村松典方(柏崎鵜川中)
生越秀司(津南町下船渡小)
斉藤儀正(津南中)
山崎義一(刈羽刈羽中)
鹿田房男(倉俣小)
榎本信子(新潟市松浜中)

▽倉俣中学校
佐藤俊男(新採用)
和泉沢総一(長岡東中)

(敬称略)

退任のごあいさつ
村山真悟

村民の皆さん、私はこの度職員の申し合せによる満五十五才の停年を迎えました。思えば町村合併前の貝野村当時からと、中里村に合併した時から学校組合教育委員会に貝野支所で、そして中里村役場で民生事務を経て中里村教育委員会にと勤務しこの間に収入役室の八ケ月を含めて丁度二十年そして大半を教育事務が占めました。色々の意味で波乱の多い過去の様ではありましたが、与えられた職に一生懸命努力したつもりであります。至らぬもの故皆さんに不満を与え気付かぬこともあったのではないかと案じております。

こんな私にもかかわらず、人間的な暖かい協力と指導をいただき、それに支えられて今日まで大きなおとがめもなく三月二十一日付をもって無事退職出来ました。この現在に至りました気持は、とても簡単に表現することをきれいに合わせることができなくて何回もほどきました。織るのがこわくなった時もあります。でもすこし慣れたら柄を合わせることは楽しい仕事です。仕事がつらいのは仕事が自分のものになっていなかったからだと、よく言われます。早い人が一週間で織り上げる琉球がすりを六十日もかかり、やっと織り上げた時はうれしいという実感はなく気がぬけてしまいます。しかし、洗たくをしてきれいに仕上った反物を見た時は、うれしくてこの仕事をしてよかったとしみじみ感じました。

宮古上布は、高度の技術を必要とします。麻糸が宮古上布になるまでの工程で、織るという仕事はほんの一部です。

私はすべての工程を修得したいと思いたってこの仕事にはいりました。宮古上布を織ってみて、私の考えがなまやさしくないことを確認しました。でも、宮古上布がきびしくむずかしいほど私はやる気になるんです。この宮古上布という糸の道に、一生かかっても「もうこれでいい」ということばはないと私に教えてくださっている下地恵廉氏は言われます。おじさまから見ると私の考えはまだまだ甘いそうです。ということは私がまだまだ宮古上布のきびしさを知らないということになりそうです。

今日、台風銀座といわれ、昔からきびしい宮古の自然の中で貧しい中で、祖先のかたがたがすばらしい文化遺産である宮古上布を生み出してくださったことを思えば、今私たちはこれを守り、よりすばらしいものを生かしていかなければならないと思います。日本列島のはしのはしに、こんなすばらしい文化が今も生きていることに喜びと誇りを感じている私です。

(月刊公民館より引用)

教職員異動を終って
教育長 村山軍英

中里村における昭和四十六年度末教職員人事異動は、転退職者合わせて十九名、転入者十九名と近年にない少範囲にとどまりました。

これは念書人事による転出者が少なかったこと、過疎化による児童生徒数の減少に伴う学級減。特に急速に進展する学校統合による過員処理等のため、永年勤続者等の交流が、思うに任せず、見送りの、やむなきに至ったことがあげられる。

前記の事情を反映して教職員の需給関係は益々、きびしさを加え新年度新採用教員の数も大巾に減少し従来年々十人以上のとは出来ません。只心から感謝申し上げるのみでございます。

本来ならばいちいちお礼申し上ぐべきところですが、紙上を借りまして厚くお礼申し上げます。私が仕事を通して交り得ました方々で、不幸にも他界された幾多の人々が頭の中を去来し又退職転職された方々も、ともに思い出されて感無量でございます。村民の皆さん、ますます健康に留意され長く活躍されますとともに、今後とも変らぬ御父誼をお願い申し上げまして退任の御挨拶といたします。長い間ほんとうに有難うございました。

交通事故防止について

毎年四月は、新入学の時期であること、春の開放感のため注意力にかけることなどから、本県では交通事故が増加しています。

「車を運転する人も」「道路を歩く人も」正しい交通マナーを身につけ、みんなで「交通事故を起こさないよう」「交通事故にあわぬよう」注意しましょう。

道路を横断する時は「まわり道でも必ず横断歩道を渡る」「信号を守って横断する」「手で合図をして、安全な時にする」

わたしの青春

カラカラ、トントン、と機を織る音が聞こえます。私の仕事場は、宮古上布という麻の手織りの反物をつくっている工場です。

宮古上布の多くは、家庭の主婦がそれぞれの家で織っていますが、私が働いているような工場もあります。五ケ月前、すばらしい宮古上布の伝統を受け継ごうと決意してこの仕事にとび込んだ私ですが、手織りという根気のいる仕事ができるかどうか心配でした。でもなんとなくやれそうな気がして、また機を織ったこともないのに、好きになれそうな気がしてこの仕事を選びました。今、私は宮古上布の織子見習です。本物の宮古上布を十二月にはいってからやっと織らせてもらいました。一番初めは麻糸で無地の反物を織りました。

へたな人が織ると麻糸はよく切れます。私も例外ではなく、織り始めのころ糸が切れること糸が切れるたびに身が切られる思いでした。そして、貴れない私には、切れた糸をつなぐことがむずかしく、腹だたしくなるやら、なさけなくなるやら。その時に、「糸と心が通じるようにならなければいけない。心で織らなければ糸が切れてしまう」と言われ、私には、わかるようなわからないようなことばでした。糸をつなぐ時間が長くて少ししか織れない日が続きました。

この無地の反物を織り上げるのに五十日かかりました。五十日も無地の反物を織って、さぞかしつまらなかったろうと思われるかたがあるかもしれません。しかし、そこには、つくる喜びがあります。横糸を一本わたすごとに一ミリの何分の一かずつ反物ができていきます。機織が初めてだった私には、一日一日手が慣れて織るのが早くなり、糸が切れなくなっていくのがはっきりわかるのです。それがうれしくて織り続けました。

二度目は水の模様のはいった宮古上布の横がすりでした。柄をきれいに合わせることができなくて何回もほどきました。織るのがこわくなった時もあります。でもすこし慣れたら柄を合わせることは楽しい仕事です。仕事がつらいのは仕事が自分のものになっていなかったからだと、よく言われます。早い人が一週間で織り上げる琉球がすりを六十日もかかり、やっと織り上げた時はうれしいという実感はなく気がぬけてしまいます。しかし、洗たくをしてきれいに仕上った反物を見た時は、うれしくてこの仕事をしてよかったとしみじみ感じました。

宮古上布は、高度の技術を必要とします。麻糸が宮古上布になるまでの工程で、織るという仕事はほんの一部です。

私はすべての工程を修得したいと思いたってこの仕事にはいりました。宮古上布を織ってみて、私の考えがなまやさしくないことを確認しました。でも、宮古上布がきびしくむずかしいほど私はやる気になるんです。この宮古上布という糸の道に、一生かかっても「もうこれでいい」ということばはないと私に教えてくださっている下地恵廉氏は言われます。おじさまから見ると私の考えはまだまだ甘いそうです。ということは私がまだまだ宮古上布のきびしさを知らないということになりそうです。

今日、台風銀座といわれ、昔からきびしい宮古の自然の中で貧しい中で、祖先のかたがたがすばらしい文化遺産である宮古上布を生み出してくださったことを思えば、今私たちはこれを守り、よりすばらしいものを生かしていかなければならないと思います。日本列島のはしのはしに、こんなすばらしい文化が今も生きていることに喜びと誇りを感じている私です。

(月刊公民館より引用)

中里村奨学金希望者募集

中里村育英事業委員会では、先般会議を開き、昭和四十七年度、中里村育英資金貸与者について、慎重審議し決定しましたが、今年は例年になく希望者が少かったので、再度希望者を募集することとなりました。ついては次の要綱で受け付けていますので、希望者は五月二十日までにお申し込みください。

(1)申し込み資格
現在大学に在学中の人 三名以内
(2)貸与予定人員
(3)申し込み方法
貸与希望者は、次の書類を添えて、五月二十日までに中里村育英事業委員会あてお申し込みください。
(イ)資金貸与願い (二通)
(ロ)身分証明書 (一通)
(ハ)学業成績証明書 (一通)
(ニ)健康診断書 (一通)

なお、くわしいことは中里村教育委員会事務局におたずねください。

新刊図書紹介

今月新しく購入いたしました新刊図書を紹介します。

○秘録陸軍中野学校 著者 畠山清行
○北道世界投げ歩る記 著者 平野時男
○六地蔵の影を斬る 著者 笹沢左保
○オオカミ追跡十八年 著者 斐太猪之介
○日本兵 著者 霜多正次
○思い出の夫婦ケンカ 著者 二十四氏
○夫と妻の収入倍増作戦 著者 浜田美智子
○北海の博徒 著者 島村 喬
○昭和ヒトケタ族の遺書 著者 石原慎太郎
○漢字まんだら 著者 藤堂明保 望月美佐
○盆栽入門 著者 小松崎良則
○源氏鶏太 著者 源氏鶏太
○けとばした青春 著者 若山三郎
○大安吉日

香典返しに寄付

芋沢の太嶋常助さんはこのほど亡父の香典返しとして、二万円を社会福祉事業に役立ててほしいと寄付されました。

人生往来

◎産声

氏名	父の名	部落
羽鳥良夫	良利	新屋敷
藤ノ木勝	晴繁	小出
鈴木幸生	幸太郎	芋川
樋口真一	喜三	荒屋
吉薬勝弥	勝太郎	宮中
浦井貴志	昌寿	桂
上原恵美子	利信	上山

◎昇天

氏名	年令	部落
滝沢トノ	(八四)	田代
徳井丑太郎	(八〇)	堀之内
村山イシ	(七二)	桂
清滝キン	(八四)	東田尻
鈴木虎一	(七七)	下山
大島フサ	(九三)	牧畑
井ノ川トミ	(八〇)	如来寺
樋口長吉	(五八)	干溝
太嶋孝平	(七八)	芋沢

訂正

三月号の人生往来で、産声中井ノ川美佐子となっているのは美江子の誤まりですので、訂正します。

原稿募集

公民館では「なかさと」の原稿を募集しています。建設的な意見や感想、また、詩、短歌、俳句、随筆など公民館あて投稿してください。

(三面下段よりつづき)

読み終えし福祉だよりをふせしまま枕ぬらせし出稼ぎの夜半

出稼の飯場の風呂より高らかに謡が歌うか故郷の唄聞えし

寄子達の福祉だより読み居ればふるさとの聞え来し

鳥追う子等の聞え来し故郷の土の香強く漂び来る

包まれば小さき森のとう

◎高砂

新郎富井秀一(三二) 市之越
新婦桜沢ナツイ(八十日町市

新任のごあいさつ

田沢中学校長　村松　典方

雪の越路にも暖冬異変のおかげで早目に春が訪れてきました皆さんにおかれましては、舞いもどった陽光のもとで、これから活動される準備で、ご多忙の毎日をお過ごしのことと推察申しあげます。

さて、この度の教員異動で私は田沢中学校勤務を命ぜられ、柏崎市鵜川中学校からこちらへ赴任して参りました。昨年秋の中里村地域ぐるみの大研究会開催はもとより、地域社会と学校教育が一体となって多くの業績を挙げてきた「中里の教育」や「教育村中里」の英名を耳にしているだけに、今回田沢中学校勤務が決定したとき、身のひきしまる思いと着任の重大さを痛感いたしました。はたせるかな四月一日村役場へごあいさつにうかがったところ、村長さんから「教育村中里の名をさらに高めるよう努力してほしい」と第一声で激励をうけました。教育も原点に還れと言われている今日、本当の人間を教育する場は農山村地域だと断言する学者が多くいます。幸い当中里村は美しい大自然に恵まれ、教育実践の場としては最好適地だと信じています。良い伝統を受けつぎ地域の要望に応えてじっくりと「人間らしい人間」の育成に全力を傾注したいと決意しています。どうぞ前任者の田中先生ご同様によろしくご指導ご支援を賜わりますよう館報を通じてお願い申しあげて、新任のごあいさつといたします。

着任のごあいさつ

田沢駐在所　村山　健一

この度の異動で田沢駐在所勤務を命ぜられ、過日着任致しました。前任地は小泉駐在所（十日町市吉田地区）でございました。地理的にも近いところに勤めて居りましたので、当地の土地柄にもすぐに馴れることと考えております。よろしくお願い申し上げます。

着任致しまして感じますことは、交通事情の問題でございます。巾員の狭い商店街は車輌の運行は増々頻繁となり、加えて小学校、中学校の二校の通学路に当っております、事故の防止と安全対策については、当局ならびに関係団体のご理解とご協力を俟つことは勿論ですが、最も大切なことは皆様一人一人が交通安全に関心を持ち、事故防止に努める以外になかろうかと存じます。一瞬にして肉親を失い、仕合わせな家庭生活が一挙に奈落の底に突き落される事故の悲惨さは、私から申し上げるまでもありません。年々増加する自動車の数を思うにつけ、交通事故の防止は、皆様共々積極的に対処してゆきたいと考えております。

又地区内には料理店、飲食店などが比較的多いように見受けられます。少年の不良化や、暴力犯罪のない明るい楽しい村となるよう関係者のご協力をお願い致します。

私もご縁がありまして、当地に勤務させて頂くことになりましたが、警察の仕事を通じて地域の発展と豊かで明るい村づくりのために幾分なりともお役に立ちたいと念願致しております皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げ、着任のごあいさつと致します。

新任のごあいさつ

清津峡小学校長　藤田甲子雄

このたび、栄えある清津峡小学校に、山本校長先生のあとを受けて奉職することになりました。

清津峡小学校は、美しい自然環境の中に、新しい校舎、運動場が見事に完成された、輝かしい伝統と校風をもつ立派な学校であります。この立派な学校がつくられるまでには、歴代の校長先生始め、多くの先生方のご努力は申すまでもありませんが地域の皆様方の教育的熱意と協力のたまものによるものと、深い敬意と感謝の気持ちでいっぱいであります。

はじめて中魚沼郡に勤務する私にとって、地域の願いのこめられているこの学校に、本校二十八名、分校十六名の子どもたちとともに、新一年生にも似た気持ちで着任いたしました。そこには、おどろかないつもりですが、スキーはダメです。中魚沼は、二年目。中津の流れから清津の流れにたどりつき、末だ妻一層のご協力をお願いいたします。

新任のごあいさつ

高道山小学校長　田中　三郎

このたび縁あって高道山小学校にお世話になりますが、郷里は高田で大正生れ、家族は長岡に居住。魚沼生活十有余年―雪国民の皆さん、税金のことにつきましては、日頃からご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、村税条例によりまして、四月は固定資産税の第一期分、および軽自動車税、また国民健康保険税の第一期分（四月分）と、三つの種類の税金を納めていただく月になっています。以下かんたんに説明いたしますので、納税につきまして、お、納期については四月、七月、九月、十二月の四期に分けて、納税していただきます。

①固定資産税について

固定資産税は、昭和四十七年一月一日現在において、中里村に存在している土地および家屋償却資産について、その所有者に税金が課せられます。この税金は、固定資産の価格に対して、税条例に定められた税率を乗じて算出しますが、昭和四十七年度は、この税率を百分の一・八から百分の一・七に引き下げられることになりました。なお、納税通知書に詳しく記載してありますが、第一期分から第三期分（四月から六月まで）の税額は、前年度の税額により仮算定をするもので、第四期分（七月分）以降については、本算定により年税額が決定されます。

以上、三種類の税金についてかんたんに述べましたが、不明の点につきましては、役場税務課にお問い合わせ下さい。

（三面下段へつづく）

納税のお知らせ

税務課

村民の皆さん、税金のことにつきましては、日頃からご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

②軽自動車税について

軽自動車税は、原動機付自転車、軽自動車、小型特殊自動車および二輪の小型自動車について、昭和四十七年四月一日現在の所有者に、それぞれ課税されます。なお、軽自動車税は、廃車または、譲渡した場合でも、廃車申告（ナンバーの返還）または、所有者の名儀変更手続きをしないと、課税されることとなりますので、手続きは、お忘れないようにお願いいたします。

③国民健康保険税について

国民健康保険税については、納税通知書に詳しく記載してありますが、第一期分から第三期分（四月から六月まで）の税額は、前年度の税額により仮算定をするもので、第四期分（七月

（三面下段へつづく）

村の発展に役立つたばこ消費税

たばこは村内で買いましょう。

ご旅行の際には、忘れずに村内でお買い求めの上、お出掛け下さい。

中里村たばこ消費税増収対策協議会

転任のごあいさつ

前清津峡小学校長　山本　広

うららかな春の季節を迎え、中里村の皆様には益々ご健勝のことと拝察申し上げます。私こと、このたびの教員異動で栃尾市立一之貝小学校へ転勤を命ぜられ過日着任いたしました。

清津峡小学校は在任三カ年でしたが公私にわたり村民各位並びに地域の温いご懇情とご支援をいただき楽しく勤務できたことを心より感謝御礼申し上げます。

清津峡は天下の景勝地でありまた中里村の玄関でもあります。山紫水明、四季の景観、清いい空気、温い民情に心を打たれ、三年間ではありましたが本当に忘れられない思い出深い任地でした。私が着任した時より清津峡小学校は全学級が複式となり一〇年前の創立当時一二〇名の児童が四〇名そこそこに激減し過疎現象をまざまざとみせつけられました。従って全職員が複式指導の研究に精魂を傾け、複式による児童の学力低下を如何にして食い止めるかに全力を捧げました。創立十周年（昭和四十四年）の記念に全教室にテレビ受像機を入れていただき視聴覚を通して子どもたちの視野を広め、学校の四囲の環境を整備して明るい子どもの養成に当りました。また土倉分校は校舎の老朽により昭和四十五年に村当局の厚意と地域の熱意によって改築され、明るいモダンな校舎が完成し、子どもたちや地域の喜びは大変でした。

これらはみんな、へき地の文化教育に誠意を示してくれた村当局並びに村民の温い協力によるものと、心より深く感謝いたしております。願わくば本校二十八名、分校十六名の児童が、へき地性を払拭して明るく、すくすくと成長し、中里村の中堅人物として活躍する姿を想起しあわせて村民各位の益々ご健康でご発展あらんことを願って、お礼をかねてお別れのご挨拶といたします。

健康家庭に記念品増呈

去る三月二十七日、中里村国民健康保険では、昭和四十六年度、健康家庭を選び記念品（ヘルスメーター一台）を贈りました。健康家庭の選定基準は国民健康保険の加入世帯であって加入者が二人以上であることに原則がおかれ、医療費のかかった額が一人当り年間千円以内であって保険税が完納されている世帯、及びレントゲン検診、予防接種等を積極的に受診し、衛生思想の良好であった世帯とされ、昭和四十六年度は二十九世帯で次のとおりです。（敬称略）

（東田沢）村山富治、（如来寺）富井正治、井ノ川忠雄、江口福松（上山）上原重男、（小原）服部宗一、田村喜代吉、樋口厚三郎、（宇藤）江口貫一、（桔梗原）根津徳太郎、（朴木沢）樋口嘉作、（鷹羽）江口重平、（百羽毛）大島正一、（東田尻）清滝宗平、（土倉）山田憲徳、（小出）藤ノ木豊松、藤ノ木幸晴、（芋川）鈴木元春、竹藤清男、（新里）斉藤洲弘、（重地）鈴木寛一郎、滝沢勝豊、（秋畑）志田福茂、（本屋敷）井ノ川正、（堀之内）南雲金次郎、（宮中）高橋ヨシイ、吉楽孝一、樋口省三、藤田幸夫

以上

保健課

確定申告がまちがっていたときは

訂正することができます。

〔税額を少なく計算していたとき〕

納めた税金が少なかったり、還付を受ける税額が多かったりしたときは「修正申告」をすることができます。調査をうける前に修正申告をすれば、過少申告加算税はかかりません。

〔税額を多く計算していたとき〕

税金を納めすぎていたり、還付を受ける税金が少なかったときは、正当な税額になおすように「更正の請求」をすることができます。期限は昭和四十八年三月十五日までです。

〔確定申告を忘れていたとき〕

期限後でも確定申告をすることができます。調査をうける前に申告をすれば無申告加算税は税額の五%ですが、税務署から決定の通知をうけると十%の無申告加算税がかかります。

昭和四十六年度戦没者及び定例未伝達叙勲について

昭和四十六年度中に戦没者叙勲及び定例未伝達叙勲をうけられた方々は次のとおりです。

官等	氏名	勲等
陸軍少尉	上原作治郎	氏瑞六
軍曹	上原松二	〃瑞八
陸軍一等兵	服部健一	〃旭八
上等兵	小林民三郎	〃旭八
上等兵	吉楽吉郎	〃瑞七
兵長	羽鳥正信	〃旭八
一等兵	上原敏男	〃旭八
徴用工	南雲ミドリ	〃瑞八
一等兵	桑原義時	氏旭八
兵長	南雲金松	〃旭八
上等兵	桑原俊二	〃旭八
上等兵	南雲武寿	〃旭八
義勇隊員	石沢正平	〃瑞八
義勇隊員	山本孝次	〃瑞八
義勇隊員	上原徳治	〃瑞八
義勇隊員	村山真悟	氏瑞八
義勇隊員	伊藤義	氏瑞八
義勇隊員	村山九	〃瑞八
兵長	上原信太郎	〃旭八
曹長	樋口徳長	〃旭七
兵長	樋口正留	〃[illegible]
上等兵	樋口正雄	〃[illegible]
海軍大佐	小林虎太郎	〃瑞四
伍長	南雲敬一	〃瑞七
伍長	桑原徳正	〃瑞七
軍曹	小林清之進	〃瑞七
軍曹	南雲国一	〃瑞七
上等兵	樋口庄作	〃[illegible]
上等兵	上原賢二郎	〃[illegible]
曹長	鈴木重義	〃[illegible]

（二面下段よりつづき）

中里村役場職員人事異動

中里村役場では、四月一日付で次のとおり職員の人事異動を行ないました。

◎異動カッコ内は、旧所属課又は新採用

▽産業課

課長補佐　上原正孝

主事　村山紹平（企画課）

主事　阿部隆嗣（建設課）

主事補　吉楽高義（建設課）

書記　高橋正文（新採用）

▽企画課

主事　大島巌（産業課）

書記　吉高稔（新採用）

▽建設課

書記　大島憲一（新採用）

書記　村山博（新採用）

▽教育委員会

課長代理　樋口信治

[illegible]（[illegible]）

▽退職

村山真悟（教委庶務課長）

（敬称略）

中里文芸　四月投稿

俳句　未知

冬去れば　ダムの静寂動きくる　キクノ

万開の桜花仰ぎてバスを待つ　時習

惜しげなく庭に散り敷く玉椿　ねむたそうな入江の波や　おぼろ月

薄氷踏む子等にある野の記憶　由記

荒駒の出ていなくや花見酒　おのえ

梅の風二十五回忌の碑をよぎる　梢陽

物干しの梅が眩しい十時の陽　峰月

子の便り奪い合う日の春炬燵　短歌

子と対話風の蝸中のあと光る　大泉

己が血の鼓動き、おり冬落ち日　牛土

山独活の薄紅に匂いける　涼子

風の飛礫の岬きらりと　ぐみ芽ぐむ

雪に裾ふれては青く浅く思念　芒月

春の丘見下ろすまばらな花の雲　深雪

雪すくなし留守もる妻の　喜楽かな

風花のまぶたのうらの虹溶かす　露丘

蕗のとう摘む中年の　琥陽に溶かし　大泉

炎は春の彩で帰郷の日を重ね　土牛

児の尿曲がれば光る春深し　露丘

廃坑佗し野生の花の終幕で　えつお

黒い雪の過失の脳の正誤表　えつお

（三面下段へつづく）